令和２年度　社会福祉法人中信社会福祉協会事業報告

１　事業目標

⑴　経営

働きやすい職場環境の整備を推進するとともに、法人としての方向性を明確にし、透明性が高く地域社会に貢献する事業運営を進めます。

⑵　サービスの向上

利用者、家族等の意見を尊重して、信頼される福祉サービスを実現し、利用者が心豊かな生活を送れるよう努めます。

⑶　地域とのつながり

地域の課題解決や地域ニーズに即した福祉サービスの提供に努めるとともに、地域の方々とのふれあいを大切にし、地域の一員であることを自覚して行動します。

⑷　人材の確保と育成

質の高いサービスを安定的に提供するため、必要な人材を確保するとともに、職員一人ひとりが福祉の専門家としての自覚と誇りを持ち、地域福祉を担う社会福祉人材を育成します。

２　取組結果

⑴　経営

ア　「第１次中長期計画」における各事業等の取組状況を検証し、次年度の事業計画を策定しました。

イ　「中長期財政計画」に基づく財政状況を四半期ごとに分析するとともに、予算に対する収支状況を毎月検証しました。

ウ　法人が所有する建物を計画的に維持管理するため、建物の劣化度調査を実施し、「福祉施設長寿命化計画」を策定しました。

エ　健康経営の取組みとして、衛生委員会の開催に加え、業務中の腰痛等の防止対策、リスクマネジメント研修、ハラスメント防止のための規則等の整備と相談体制の構築及びメンタルヘルス対策を実施しました。

⑵　サービスの向上

ア　長野県が主催する「障がい者虐待防止・権利擁護研修」を受講し、各施設等において伝達研修を実施しました。法人主催の虐待防止・権利擁護研修は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の感染防止のため、開催を見合わせました。

イ　利用者の高齢化に対する取組みとして、利用者とその家族の意向に基づいて高齢者施設等への移行を支援しました。

ウ　強度行動障がい者の支援については、「知障部」において新たに利用を希望す

る方への対応について、継続的な取組みを実践しました。また、「松本保健福祉圏域自立支援協議会」と連携し、受入れ態勢の整備に関する検討を進めました。

エ　防災対策として、防災備蓄品の更新、安否確認訓練（令和２年４月２４日）及び大規模災害対応訓練（令和２年９月８日）を実施しました。

オ　利用者の意思決定の推進として、「個別支援計画策定マニュアル」を検証するとともに、支援計画とサービス提供記録に関する内部検査体制を構築しました。

⑶　地域とのつながり

ア　公益的な取組みとして、「みすぎの森」において無料宿泊体験事業（２件）を実施しました。

イ　障害者相談支援事業を引き続き受託し、地域の社会資源との連携を推進しました。

ウ　コロナ感染症の影響を受け、地域との連携活動は縮小又は中止を余儀なくされましたが、施設内における利用者の創作活動は継続実施しました。

エ　地域交流、地域貢献にかかわる取組みは、コロナ感染症の影響による催し等の中止が相次ぎましたが、学校等との交流事業は限定的ではあったものの、その一部を実施することができました。

⑷　人材の確保と育成

ア　職員採用試験を実施し、新たに６人の職員を採用しました。学校訪問、各種求人情報、情報サイト等を活用し、８人の施設見学者及びインターンシップを受け入れました。

イ　働き方改革への対応として、有期雇用職員が多様な勤務形態を選択でき、雇用の安定を図ることを目的とする職員登用試験を実施し、７人の職員を無期雇用職員として登用しました。

ウ　「人材育成計画」の策定に着手し、令和３年度に策定することとしています。また、法人主催による研修は、コロナ感染症の影響を受け、感染状況の小康期において一部の実施にとどまりました。

エ　職員が業務の目標、手順、役割等を明確にし、その目標などを上司や職場内で共有する「職員個別計画」の取組みに着手しました。

３　特記事項

⑴　コロナ感染症対策

「新型コロナウイルス感染症対策会議」を月２回、合計で２４回開催しました。長野県内をはじめ首都圏の感染状況を確認し、その都度、法人の対策を見直すなど周りの変化を踏まえた速やかな対応に心掛け、「感染源（ウイルス）を施設に持ち込まない」ための予防対策を講じました。

⑵　法人事業の見直し

宅幼老所「都波岐の杜」及び就労移行支援事業所「松本障害者雇用支援センター」の経営分析を行いました。その結果、「都波岐の杜」を令和２年度限りで廃止

し、また、「松本障害者雇用支援センター」については、令和３年４月１日に就労継続支援Ｂ型事業所「第２共立学舎」と統合することで法人経営の健全化とともに利用者への充実した支援体制の構築を図りました。

⑶　施設及び設備の充実

ア　大規模災害等による電源喪失時に、呼吸、たんの吸引等の機器を正常に継続して稼働させるため、「梓荘」と「ささらの里」に「非常用自家発電設備」を整備しました。

イ　建物の老朽化への対応と耐震補強対策として、グループホーム「あさがお」を移転新築しました。

ウ　「梓荘」の特殊浴槽を更新し、音響設備を改修しました。

令和２年度　本部事業報告

（事務局総務課及び事務局サービス管理課）

１　事業目標

⑴　中長期的な事業運営と事務事業の見直し

⑵　信頼されるサービスの提供

⑶　人材の確保・育成と健康経営

２　取組結果

⑴　中長期的な事業運営と事務事業の見直し

ア　「第１次中長期計画」に沿った事業運営を進めるため、４月及び１２月に取組状況を検証し、その結果に基づいて令和３年度事業計画を策定しました。

イ　令和元年度決算に基づき、「中長期財政計画」を見直し、四半期ごとに収支状況と計画の整合性を検証しました。

ウ　法人の施設建物、設備等を計画的に維持更新するための「福祉施設長寿命化計画」を策定しました。今後、建物の維持及び更新に係る費用を「中長期財政計画」に反映します。

エ　決算監査（令和２年５月２２日）、中間監査（令和２年１１月２７日）、内部監査（令和２年７月及び１０月）及び会計事務所巡回指導（毎月）を実施し、財務規律の強化を図りました。また、会計監査人導入に関する検討を行った結果、国の導入スケジュールの延期と県内他法人の導入状況を踏まえ、当面は導入しないこととしました。

オ　「第三者評価制度」の導入にかかわる検討を行い、評価機関の確認項目に基づいた内部評価体制を構築し、導入に向けた準備に着手しました。

カ　社会福祉法に定める公開資料のほか、法人ホームページをはじめ各種情報媒体を活用して法人情報を発信しました。

⑵　信頼されるサービスの提供

ア　緊急時短期入所空床確保事業（地域生活支援等事業）

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の感染予防のため、当事業の開始は見送られました。

イ　利用者の高齢化に伴う対応として、希望する利用者が円滑に高齢者施設に移行するための支援を行うとともに、必要な設備や支援方法について検討しました。

ウ　強度行動障がい者の支援については、「松本障害保健福祉圏域自立支援協議会」と連携し、松本圏域における受入れ態勢の整備に向けた検討を進めました。

エ　防災対策として、非常用自家発電設備を「梓荘」及び「ささらの里」に整備したほか、「大規模災害対応マニュアル」を改定し、マニュアルに基づいた訓練を実施しました。

オ　「法人虐待防止委員会」（令和２年８月及び令和３年２月）を開催し、施設等における虐待防止、身体拘束解除等の取組みを共有するとともに改善策を講じました。

カ　所轄庁による実地指導の前に業務実施状況等の点検を行うとともに、施設等への指摘事項を法人内で共有し、改善を図りました。

キ　利用者ケース記録等各種記録システムの運用に当たっては、施設等における個々の課題に改善策を講じ、円滑な運用に努めました。

ク　事故・ヒヤリハットを毎月分析し、法人をあげて改善策を講じました。

ケ　「利用者満足度調査」（令和２年１２月）を実施し、傾向の把握と検証を行い、提供サービスの改善を図りました。

コ　「サービス管理課」の業務分掌を明確化し、「障害者相談支援センター中信」の相談業務との兼務解消と本部機能の強化を図るため、組織改正を行いました。

⑶　人材の確保・育成と健康経営

ア　働き方改革及び育児・介護休業法の改正に伴い、年次休暇の取得方法、子の看護休暇及び介護休暇の取得単位を見直しました。

イ　職員採用試験を実施し、新たに６人の職員を採用しました。また、施設見学及びインターンシップの希望に応え８人を受け入れました。

ウ　将来を担う職員の定着化を図り、体系的な人材育成の基本方針を定める「人材育成計画」の策定に着手しました。

エ　健康経営の取組みとして、衛生委員会を開催し、産業医による職場巡視と職員面談を行いました。

オ　サービス管理責任者、相談支援従事者等の新規又は更新研修を参加しました。

カ　接遇向上週間を年２回設け、接遇に関する自己点検を行いました。

３　特記事項

⑴　コロナ感染症対策

「新型コロナウイルス感染症対策会議」を毎月２回、合計で２４回開催しました。国・長野県の動向、感染状況等を把握し、長野県の感染警戒レベルに対応した「法人危機管理表」に基づいて感染症対策を講じました。また、必要な衛生用品、感染症対策物品等の確保に努めました。

⑵　提供サービスに関する内部検査体制の構築

提供サービスの質を高めるため、個別支援計画及びケース記録に関する内部検査体制を構築しました。

⑶　法人運営における課題の検討

プロジェクト会議を組織し、給与・手当のあり方、人事評価制度の導入、「職員個別計画」（目標管理）、人材育成、有効な情報発信等について検討を進めました。

令和２年度　事務局障害者相談支援センター中信事業報告

１　事業目標

⑴　意思決定支援、権利擁護の視点に立った相談援助の実践
⑵　地域の社会資源との協働による地域生活拠点支援体制の構築
⑶　相談援助技術の向上
⑷　相談援助窓口の充実

２　取組結果

⑴　意思決定支援、権利擁護の視点に立った相談援助の実践

ア　指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業の実施

障がい者が障害福祉サービスを利用するためのサービス等利用計画の作成及び利用者の状態やサービスの意向を確認するモニタリングを実施しました。

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）への対策をしたうえで、関係機関を招集した支援会議やモニタリングを実施しました。計画作成に当たっては、意思決定支援に配慮しました。

イ　対応困難ケースの受入検討会議の開催

複雑な課題のあるケースについては、総合相談支援センターのコーディネーターや行政関係者などと連携し、多角的な視点から受入方法を模索しました。また、定期的に受入検討会議を開催し、令和２年度は１７人の新規利用につなげました。

⑵　地域の社会資源との協働による地域生活拠点支援体制の構築

ア　障害者相談支援事業（松本圏域８市村受託事業）の受託

障害者相談支援事業を受託し、構成８市村との受託契約、受託法人との再委託契約業務を担いました。代表法人として関係機関との調整を行い、地域の課題解決に寄与しました。計画相談に該当しない障がい児･者の相談等に対応するため、「松本圏域障がい者総合総合相談支援センターＷｉｓｈ」に、松本市内全エリアを担当するコーディネーターとして職員を派遣しました。

イ　「松本障害保健福祉圏域自立支援協議会」事務局業務の受託

「松本障害保健福祉圏域自立支援協議会」事務局業務を引き続き受託し、自立支援協議会の各種会議の運営に携わり、機能的な役割を果たしました。協議会は年３回、幹事会は年４回開催し、松本圏域における障がい児・者を取り巻く課題把握と課題解決のための協議を進めました。

⑶　相談援助技術の向上

ア　各種研修への参加

コロナ感染症の感染拡大の影響を受け、各種研修が見合わせとなったため、受講実績はありませんでした。

イ　総合相談支援センター事例検討会等への参加

総合相談支援センターの事例検討会及び松本市ケアマネジメント連絡会はコ

ロナ感染症の影響を受け、一部開催が見合せとなりましたが、開催された４回の会議に出席し、圏域の情報を得るとともに、専門知識と支援技術を習得しました。

⑷　相談援助窓口の充実

行政機関や総合相談支援センターからの新規相談だけでなく、苦情解決の窓口としても一定の役割を果たしました。法人内外の利用者の区分認定調査に同席し、本人の障がい特性のほか、利用者、ご家族等の要望を聞く機会を増やすようにしました。

３　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業

ア　計画作成及びモニタリング　（単位：件）

区分（延件数）	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
指定特定相談支援事業	１，００９	１，０２８	１，０９１
指定障害児相談支援事業	５３	４６	６８
合計	１,０６２	１,０７４	１,１５９

イ　利用現員　（単位：人）

区分（実人数）	令和元年度末利用者数	新規利用者数	計画終了利用者数	令和２年度末利用者数
指定特定相談支援事業	３６７	１４	２６	３５５
指定障害児相談支援事業	１８	３	０	２１
合計	３８５	１７	２６	３７６

ウ　生活状況　（単位：人）

区分（実人数）	施設入所	在宅	合計
指定特定相談支援事業	１６６	１８９	３５５
指定障害児相談支援事業	０	２１	２１
合計	１６６	２１０	３７６

エ　地域別利用者数（実人数）

(ｱ)　指定特定相談支援事業　（単位：人）

松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
２４４	５	３１	２６	５	３２	１	１１	３５５

(ｲ)　指定障害児相談支援事業　（単位：人）

松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
１０	０	０	１１	０	０	０	０	２１

⑵　障害者相談支援事業（松本圏域８市村受託事業）

相談実績件数　（単位：件）

<table>
<tr><th>区分（延件数）</th><th>平成３０年度</th><th>令和元年度</th><th>令和２年度</th></tr>
<tr><td>松本圏域障がい者総合相談支援センターＷｉｓｈ</td><td>１０,６６４</td><td>１４,６３６</td><td rowspan="2">１２,３９５</td></tr>
<tr><td>松本圏域障がい者総合相談支援センターＷｉｓｈ
（松本市西部エリア担当）</td><td>1,８４４</td><td>1,７７２</td></tr>
<tr><td>松本圏域障がい者総合相談支援センターボイス</td><td>4,３３２</td><td>4,１６８</td><td>2,１９３</td></tr>
<tr><td>松本圏域障がい者総合相談支援センターあるぷ</td><td>3,８６５</td><td>5,３５３</td><td>4,５１８</td></tr>
</table>

令和２年度　事務局地域サポートセンター事業報告

１　事業目標

⑴　利用者の心に寄り添った支援
⑵　家庭的な雰囲気を大切にした活動
⑶　地域住民としての役割と交流
⑷　安全な住環境の提供

２　取組結果

⑴　利用者の心に寄り添った支援

利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、個別に話を聞くなどの対応を行ったことで、利用者が安心して穏やかな生活を送ることができました。

⑵　家庭的な雰囲気を大切にした活動

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の感染防止対策のため、季節の行事や外出等が制限されるなか、お弁当を持参した散歩や誕生日会をグループホームごとに企画し、利用者のストレス軽減に努めました。

⑶　地域住民としての役割と交流

コロナ感染症の影響を受け、地区清掃、防災訓練及び旅行など地域の活動が中止になり地域の方々との交流機会が減少しました。しかし、散歩をしながら近隣の方とあいさつを交わすことや、近隣の方から野菜をいただくなどの交流をすることができました。

⑷　安全な住環境の提供

グループホーム「あさがお」の移転新築工事が無事終了し、３月から新たな場所及び施設において地域の一員としての生活がスタートしました。

共同生活のなかで一人ひとりが役割意識を持ち、ルールを守り、お互いが気持ちよく生活が送れるように支援しました。

３　特記事項

⑴　長期治療を要する利用者がいたため、入院日数の増加及び通院が増加しました。
⑵　令和３年度に予定しているグループホーム「さつき」の耐震化改修事業は、「社会福祉施設等整備事業国庫補助金」の採択を受けることができました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員(a)	年度末現員			差引
		３０年度	元年度	２年度(b)	(b)－(a)
杉のこ	7	7	7	7	0
やまぶき	8	8	8	8	0
いっきゅう	7	7	7	7	0
さつき	7	7	7	7	0
あさがお	7	7	7	7	0
西林	7	7	7	7	0
合計	４３	４３	４３	４３	0

⑵　令和２年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
いっきゅう	1	1	0

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39歳	40～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１１	5	2	1	4	２３	４６.０	４５.１
女	5	8	1	3	3	２０	５２.４	５０.９
計	１６	１３	3	4	7	４３	４９.０	４８.０

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	1	3	5	１１	3	0	２３	３.５	３.４
女	1	0	0	5	8	5	1	２０	３.９	３.８
計	1	1	3	１０	１９	8	1	４３	３.７	３.６

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１４	1	1	3	0	4	0	0	２３
女	8	1	1	1	1	5	0	3	２０
計	２２	2	2	4	1	9	0	3	４３

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	0	1	1	0	0	0	2
女	0	0	0	1	0	0	1
計	0	1	1	1	0	0	3

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	９	１	７	６	２３
女	７	０	１１	２	２０
計	１６	１	１８	８	４３

５　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	２８日　各グループホーム消防点検、お花見（各グループホーム）
６月	８日　「いっきゅう」世話人会、１５日　「やまぶき」世話人会、２２日　「西林」世話人会、２９日「杉のこ」世話人会
７月	３日　「あさがお」起工式（地鎮祭）、６日　「さつき」世話人会、１３日　「あさがお」、「いっきゅう」世話人会、１７日　山形村民生委員による環境整備ボランティア（「さつき」、「杉のこ」）
８月	２６日　「いっきゅう」世話人会
９月	各グループホーム避難訓練（２日、４日、７日、１１日、１６日、１７日）
１０月	３０日　「西林」世話人会
１１月	９日　「いっきゅう」世話人会
１２月	クリスマス・忘年会（各グループホーム）
１月	新年会（各グループホーム）
２月	１２日　「あさがお」引渡し、世話人への設備等説明会
３月	１２日　「あさがお」竣工式

６　健康管理状況

受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	３０年度	元年度	２年度	３０年度	元年度	２年度
受診状況	２	３２	３６	２４	３４６	４００
入院状況	０	２	２	０	６８	１５４
合計	２	３４	３８	２４	４１４	５５４

令和２年度　事務局都波岐の杜事業報告

１　事業目標

⑴　地域包括ケアシステムの実現

⑵　安定的な事業運営

⑶　サービスの質の向上

２　取組結果

⑴　地域包括ケアシステムの実現

小規模事業所の特徴を活かし、利用者が季節を感じることができる行事や食事の提供、脳トレーニング、創作活動、ゲームを楽しむなど、温かみのあるサービス提供に努めました。

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていただくため、通所介護保険事業所としての役割を果たしました。

⑵　安定的な事業運営

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）に関する国の対策として、サービス利用時間を２段階増やす特例措置が適用され、利用者及び家族から同意をいただいたうえで実施しました。

⑶　サービスの質の向上

コロナ感染症拡大防止のため､各種研修の多くが延期又は中止となりましたが、感染症対策の研修会は通所介護部会などで開催され、法人のコロナ感染症対応とともに職員に周知を図りました。朝夕のミーティングや連絡ノートを活用し、利用者への感染予防対応を確認しました。

３　特記事項

⑴　介護保険事業の廃止

法人経営の健全化を図るため、本年度をもって事業を廃止しました。利用者及び家族への説明とともに、利用者に切れ目のないサービスが提供できるよう、利用者、家族及びケアマネージャーと調整を行い、令和３年２月までにすべての利用者について他事業所への利用手続きが完了しました。

⑵　コロナ感染症対策

法人の対応に基づいてコロナ感染症対策に取り組みました。利用者の多くが８０歳以上の高齢者であるため、バイタルチェックに加え、送迎車両と事業所内の消毒、手洗い、マスクの着用を徹底しました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び契約者　　（単位：人）

区分	定員	契約者数
地域密着型通所介護	１５	０
総合事業		０

⑵　令和２年度異動状況　　（単位：人）

区　分	新規利用者数	利用終了者数	差引
地域密着型通所介護	２	２７	△２５
総合事業	０	４	△４

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等の実施状況

月	行事等の内容
８月	夏祭り
９月	敬老会
１２月	クリスマス会
毎月	誕生会、ツバキノモリンピック

⑵　日中活動の実施状況

活動	活動の状況
軽体操	全身の軽体操、棒体操、嚥下機能体操
脳トレーニング	新聞読み聞かせ（質疑応答）、ぬり絵、間違い探し、クロスワードパズル、点つなぎ、計算、漢字問題等各種脳トレ問題等
創作	ちぎり絵カレンダー（毎月）、書初め、季節の創作（折り紙、壁掛け等）、ペーパークラフト等
調理	ヨモギ餅、まゆ玉、ピザ、干し柿、クッキー等
外出	中止
イベント	毎月の誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会
レクリエーション	毎月の曜日対抗ツバキノモリンピック（各種ゲーム）、正月あそび、ボッチャ等

６　給食

年間給食数（体験利用含む。）　　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	３,３１１	２,７４１	１,６１０
職員等	５１４	３０８	２９６
計	３,８２５	３,０４９	１,９０６

7　短期入所事業等実施状況　（単位：人・日）

区　分	定員	実人数	延利用日数
松本市ナイトケア事業	1	0	0

8　地域密着型通所介護・総合事業利用実績　（単位：日・人）

月	営業日数	利用契約者	延利用者数	１日平均利用者数
４月	２４	３１	１５９	6.6
５月	２４	２９	１４８	6.1
６月	２６	２７	１８０	6.9
７月	２６	２７	１９２	7.4
８月	２６	２６	１７３	6.7
９月	２６	２６	１７５	6.7
１０月	２７	２６	１７８	6.6
１１月	２５	２６	１８５	7.4
１２月	２４	２１	１２３	5.1
１月	２４	１３	６９	2.9
２月	１８	6	２６	1.4
３月	0	0	0	0
合計	２７０	（平均） ２１.５	1,６０８	（年間１日平均） 6.0

令和２年度　事務局松本障害者雇用支援センター事業報告

１　事業目標

⑴　職業準備トレーニングの充実
⑵　職場定着のための支援
⑶　避難訓練の実施と危機管理
⑷　職員の資質の向上と明るい職場づくり
⑸　地域貢献の取組み

２　取組結果

⑴　職業準備トレーニングの充実

養護学校、高等学校等からの就職希望者に対して、新たに８人と利用契約を締結しました。また、新型コロナウイルス感染症感染予防対応のなか、職場見学を適宜行いながら、延べ２９人の利用者に対し職場実習を実施しました。就職に必要な力を身に付けるため認知機能強化トレーニングを取り入れて、個々の障がい特性に合った就職支援を行いました。

年度途中に体調不良による契約終了が１人、就労継続Ａ型事業所に移行した方が１人いました。

⑵　職場定着のための支援

ア　就労移行支援事業

令和２年度は７人の就職者を送り出すことができました。企業の要望に応え、利用者が就職した段階から職場適応援助者（ジョブコーチ）による職場定着を図り、「長野障害者職業センター」と連携した支援に努めました。また、個別に就職後の定着支援を実施しました。

イ　就労定着支援事業

就職後６カ月を経過した利用者の職場定着支援として、新たに１人が利用開始となりました。継続して職場定着ができるよう企業と連携しながら、定期的な支援を実施しました。就労定着支援利用者２人については期間が終了し、その後も就労を継続することができています。

⑶　避難訓練の実施と危機管理

ア　災害対応マニュアルに沿って大規模災害における避難訓練及び屋外で消火器を使った消火訓練を年２回実施しました。また、７月に市内で大雨特別警報が発出された際には、法人の指示のもと通所者の安全確保のため、各家庭との連携を図り情報を共有しました。

イ　３月に松本警察署から講師を派遣いただき、防犯講習会を実施しました。利用者が、社会人としての一般常識、犯罪に巻き込まれないための安全確保に関する講義を受けました。

⑷　職員の資質の向上と明るい職場づくり

ア　発達障がいサポートマネージャーによる月１回の定例研修会を実施し、障がい特性や就労支援の方法についてアドバイスをいただきました。職員と家族がそれぞれの立場での研修を受講しました。

イ　障がい者の就労支援に必要な障害者職業支援研修を職員１人が受講しました。

⑸　地域貢献の取組み

当センター周辺の草取りやゴミ拾いなど地域の環境美化に努めました。また、降雪時の転倒防止のため、センター前の歩道に融雪剤を散布し、地域住民の利便性の向上を図りました。

３　特記事項

⑴　就労関連事業所の統合

就労支援事業の一体的かつ効率的な事業運営を行うことを目的として、就労継続支援Ｂ型事業所「第２共立学舎」との統合に向け、利用者の家族、行政関係者等と協議を重ねました。統合先名称については、長年、愛称として使用してきた「チャレンジ松本」としました。令和３年４月から引き続き新たな多機能型事業所において就労移行支援の役割を果たしていくことになりました。

⑵　就労定着支援事業

この事業は、上記就労関連事業所の統合により新年度当初からの障害福祉サービスとしての指定を受けられないことになったことから、継続利用者については法人として責任をもって同等の就労定着支援事業を提供することとしました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び異動状況　（単位：人）

区分	定員	令和元年度末 利用者数	新規 利用者数	利用 終了者数	令和２年度末 利用者数
就労移行支援事業	２０	7	8	9	6
就労定着支援事業	－	3	1	2	2

⑵　利用実績（延べ人数）　（単位：人）

区分	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
就労移行支援事業	３，８２８	２，４６２	２，４０９
就労定着支援事業	－	２５	３２

⑶　年齢別状況

ア　就労移行支援　（単位：人・歳）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	4	0	0	0	0	4	２１.５	２３.９
女	2	0	0	0	0	2	１９.０	0
合計	6	0	0	0	0	6	２０.３	２３.９

イ　就労定着支援　（単位：人・歳）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	1	0	0	0	0	1	３１.０	３５.０
女	1	0	0	0	0	1	２２.０	２３.０
合計	2	0	0	0	0	2	２６.５	２９.０

⑷　地域別利用者数

ア　就労移行支援　（単位：人）

区分	松本市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	合計
男	3	0	0	0	0	1	0	4
女	2	0	0	0	0	0	0	2
合計	5	0	0	0	0	1	0	6

イ　就労定着支援　（単位：人）

区分	松本市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	合計
男	1	0	0	0	0	0	0	1
女	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	2	0	0	0	0	0	0	2

⑸　障がい状況

ア　療育手帳所持状況

(ｱ)　就労移行支援　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	合計
男	0	0	0	3	3
女	0	0	0	2	2
合計	0	0	0	5	5

(ｲ)　就労定着支援　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	合計
男	0	0	0	1	1
女	0	0	0	1	1
合計	0	0	0	2	2

イ　精神障害者保健福祉手帳所持状況

(ｱ)　就労移行支援　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	合計
男	1	0	0	1
女	0	0	0	0
合計	1	0	0	1

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	利用開始式、お花見、避難訓練
６月	野外訓練（農業収穫体験）、企業見学、利用開始式
８月	七夕飾り
９月	避難訓練
１０月	調理実習、野外訓練（木工体験）
１１月	社会見学（美術館、松本城）
１２月	ビジネスマナー研修、社会体験（ガラス細工）、お楽しみ会、大掃除
１月	書初め
２月	企業見学
３月	防犯講習会、調理実習、送別会
随時	出発の式（就職者お祝い会）
毎月１回	発達障がいサポートマネージャーによる定例研修

6　職種別就職の状況　（単位：人）

職種	製造業	サービス業	食品製造	福祉施設	合計
人数	2	2	1	2	7

7　職場実習の状況（各月の延べ人数）　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人員	1	0	0	2	3	1	6	6	3	3	2	2	２９

（注）月平均人数は、小数点２位以下四捨五入

8　ジョブコーチによる職場適応援助の状況　（単位：人）

身体	知的	精神	その他	合計
0	1	0	0	1

令和２年度　梓荘事業報告

１　事業目標

⑴　支援体制の強化と提供サービスの充実

⑵　職員育成と支援力の向上

⑶　地域の方々とのふれあいと貢献

２　取組結果

⑴　支援体制の強化と提供サービスの充実

ア　支援体制強化のため、日課責任者をより現場に近い主任、係長、専門員が担当し、日課を行ううえで責任ある行動を示すことに努めました。その結果、指示伝達系統が明らかになり、施設全体の管理意識と安全意識が向上しました。

イ　夜勤者の身体的負担軽減を目的とした男性支援員の「早早番」勤務の導入から１年が経過し、起床時に夜勤明け職員の腰痛防止等の効果が見られました。また、利用者にとってはより安心して支援を受けることにつながりました。この他にも日課検討会議で業務内容を精査し、職員体制とのバランスを取りながら、効率的で安全なサービス提供に努めました。

ウ　日中の余暇活動においては、従来からの音楽、書道、絵画に加え、春祭りや秋祭り等で利用者に喜ばれたゲームや体操など、運動の要素を取入れたレクリエーション活動を実施しました。

エ　施設外の社会とのつながりを目的とした日帰り旅行を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の影響で実施できませんでした。コロナ感染症の状況を注視しながら、外出支援として短時間の買い物支援ができる機会をつくりました。

オ　通所部は、コロナ感染症の影響で利用自粛があり、４月から５月までは１日の目標利用者１０人を下回りましたが、下半期はコロナ感染症対策を行いながら、１０人を超えることができました。

　コロナ感染症防止のため、受入れの際には健康チェックを慎重に行い、１１月以降は、通所と施設入所の行動範囲を分離するなど、さらなる感染防止対策を講じました。

カ　家族との連携のための家族会活動や懇親会は、コロナ感染症の影響で取り止めましたが、利用者個々の支援報告書や郵送、電話連絡等で活動の様子を伝えるなど、家族との信頼関係の維持に努めました。

⑵　職員育成と支援力の向上

ア　風通しの良い職場作りを目的として、男性・女性職員ミーティングを年３回実施しました。その結果、職員間のコミュニケーションが深まり、お互いの意見を尊重し連携を高めることができました。

イ　日常支援における気づきを高めるため、終業時に業務振返りの時間を設けました。支援行動目標を意識した支援業務の改善と利用者を尊重した支援を行うように努めました。

ウ　職員全体の支援力向上のため、長野県下の身体障がい者の施設との交流研修を計画しましたが、コロナ感染症の影響で実施は見送りました。それに代わりインターネットを活用し、情報収集を行いました。

エ　発生した事故・ヒヤリハットは、発生直後に職員に周知するとともに、原因や再発防止対策について毎月、リスク委員会で分析検討しました。分析結果は、職員会議や調整会議において職員間で情報を共有し、再発防止に努めました。事故事例は６件、ヒヤリハット事例は７７件でした。

オ　緊急時に適切な対応が取れるよう、救急救命普及員の職員が心肺蘇生法、ＡＥＤの使用訓練を実施しました。また、夜間総合避難訓練を年１回、昼間避難訓練を年２回、防犯訓練を年１回実施しました。加えて、補助金を受けて非常用自家発電設備を設置し、災害の停電時における利用者の安全な暮らしを確保できるようになりました。

カ　コロナ感染症の影響でスムーズな受診が困難な事例がありましたが、嘱託医である松本市立病院を中心に医務及び支援部門が連携し、高齢化・重度化が進んでいる利用者の些細な体調変化を見逃さないよう健康維持に努めました。このようななか、嘱託医の指導のもと、利用者本人と家族の意思を尊重し、終末期の看取りを２件対応しました。

　また、嘱託医が泌尿器科専門医であることから、より専門的な医療支援を受けることができるようになりました。

⑶　地域の方々とのふれあいと貢献

ア　梓川中学校との長い歴史のある交流事業は、コロナ感染症の影響で従来のようなクラス単位の交流はできませんでしたが、吹奏楽部の生徒約６０人による施設の草取りボランティア、屋外演奏会を通して交流ができました。秋祭りでは、リモートネットワークを活用した交流を行いました。

イ　地域住民との交流活動については、コロナ感染症の感染予防のため実施を見合せました。

ウ　養成校の実習は、コロナ感染症の影響で長野県福祉大学校１校の１人にとどまりました。

３　特記事項

⑴　コロナ感染症の感染拡大によって施設への感染リスクが高まるなか、施設内で感染が発生した場合に備え、入所・通所利用者の活動エリアの区分け、リモートネットワークでの面会の導入、面会時の飛沫防止パーテーション設置など感染予防の徹底に努めました。

　また、松本市立病院感染管理認定看護師による研修会を実施し、内部伝達研修会

を３回実施し、さらに「予防具の取扱講習」を継続して実施し感染予防に努めました。

⑵　非常用自家発電設備の整備し、災害時など一定時間電源確保ができました。これにより室温確保や食事の提供など非常時の生活の維持が可能となりました。

⑶　特殊浴槽設備を更新しました。さらに快適で安全な気持ちの良い入浴サービスが提供できるようになりました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)−(a)
		30 年度	元年度	2 年度(b)	
生活介護事業（入所）	５５	５１	５１	５２	６．２５（１日あたり）
生活介護事業（通所）（１日あたり利用者数）		３２（９.３９）	２６（８.３１）	３３（９.２５）	
施設入所支援事業	５０	５１	５１	５２	2

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業（入所）	9	8	1
生活介護事業（通所）	5	2	3
施設入所支援事業	9	8	1

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	2	１４	4	3	3	２６	５６．０	５６．０
女	2	8	4	4	8	２６	６１．０	６３．０
計	4	２２	8	7	１１	５２	５８．１	５９．４

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	6	１１	3	1	0	２１	４６．０	４５．１
女	8	4	0	0	0	１２	３２．０	３２．０
計	１４	１５	3	1	0	３３	４１．０	４０．６

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	0	0	0	1	8	１７	２６	5．6	5．8
女	0	0	2	1	6	１７	２６	5．5	5．8
計	0	0	2	2	１４	３４	５２	5．5	5．8

イ　通所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	４	２	６	９	２１	４．９	４．９
女	０	０	０	１	４	７	１２	５．５	５．７
計	０	０	４	３	１０	１６	３３	５．２	５．２

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１３	０	４	６	０	２	１	０	２６
女	１６	２	１	３	１	２	０	１	２６
計	２９	２	５	９	１	４	１	１	５２

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１４	０	０	６	０	１	０	０	２１
女	５	０	０	６	０	１	０	０	１２
計	１９	０	０	１２	０	２	０	０	３３

⑹　障がいの状況

ア　入所

(ｱ)　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	１９	７	０	０	０	０	２６
女	１５	８	２	０	０	０	２５
計	３４	１５	２	０	０	０	５１

(ｲ)　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	２	２	１	０	５
女	６	２	０	０	８
計	８	４	１	０	１３

イ　通所

(ｱ)　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	１３	２	０	１	１	０	１７
女	９	１	０	０	０	０	１０
計	２２	３	０	１	１	０	２７

(ｲ)　療育手帳所持状況　　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	4	1	1	1	7
女	4	0	1	0	5
計	8	1	2	1	１２

5　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
５月	３０日　春祭り昼食会
７月	８日　衣料品出張販売、２２日　夜間総合避難訓練
８月	２日　夏祭り、３日　防犯訓練
１０月	１８日　秋祭り
１１月	１５日　衣料品出張販売
１２月	１６日　忘年会、２３日　クリスマス会
１月	７日　新年会・そば会
２月	２日　節分、２４日　寿司を賞味する会
通年	北々条地区の皆さんによるボランティア草取り、梓川中学校交流等

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	8	１３４	カラオケ、音楽鑑賞
書道クラブ	１１	６６	施設内展示、秋祭り展示
絵画クラブ	１０	８６	デッサン、塗り絵、施設内展示
映画鑑賞	1	１０	ＤＶＤ鑑賞
外出	9	２６	ドライブ・買い物
計	３９	３２２	

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　　（単位：人）

実施機関	内容	実人数			延人数		
		３０	元	2	３０	元	2
病院	内科	0	0	５２	0	0	５２
	歯科	0	7	6	0	7	6
医院	内科検診	５２	５２	0	５２	５２	0
	精神科	１７	１７	2	１７	１７	2
その他の医療機関	レントゲン	４８	４８	５０	４８	４８	５０
	歯科検診	５２	５２	５２	５２	５２	５２

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	30年度	元年度	2年度	30年度	元年度	2年度
受診状況	12	23	33	45	79	38
入院状況	12	12	14	606	566	449
施設内処置状況	52	46	52	7,892	9,018	12,163
機能訓練実施状況	52	51	52	1,248	1,224	1,248
合計	128	132	151	9,791	10,887	13,898

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	５５,１７９	５５,９４２	５６,１５７
職員等	３,４５０	３,３６３	３,５４５
計	５８,６２９	５９,３０５	５９,７０２

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，５００kcal	１，４８７kcal
タンパク質	６０．０g	６６．５g
脂質	４２．０g	４４．９g

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	２４	１８	２３	週１回 水曜日
	軟飯	１	４	４	
	粥食	２１	２４	２２	
	ミキサー食・ゼリー食	３	５	３	
副食	常食	１２	１３	１３	
	粗刻み	５	６	１０	
	細刻み・刻み	２０	２０	１８	
	ミキサー食	１２	１２	１１	
	経管栄養	０	０	０	
計		４９	５１	５２	

８　短期入所事業等実施状況　（単位:人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
短期入所事業	2	2	2	１４	２０	１６	４６３	４３７	２１６
日中一時支援事業	0	0	0	3	4	２４	８６	９４	９３

令和２年度　ささらの里事業報告

１　事業目標

⑴　サービスの向上

⑵　地域とのつながり

⑶　職員が笑顔で働ける職場風土の醸成

２　取組結果

⑴　サービスの向上

ア　「ノーリフトケア」の推進

ベッド、車椅子及びストレッチャー間の移乗について「イージーロール」、「スライドボード」、「走行リフト」、移動サポート機器「ハグ」等の器具を使用し、利用者や職員への負荷を軽減するよう努めました。一人ひとりの身体の状況に合わせた機器の使用を意識することで、「スライドボード」や「ハグ」の使用率が向上しました。

イ　意思決定支援に基づいた個別支援計画の策定と支援

個別支援計画策定時に意思決定支援書を用い、利用者本人や家族の意向を踏まえた支援を念頭に、より具体的で利用者に寄り添ったサービスの提供に努めました。

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の予防対策として、相談支援面接、ウェブ会議、家族との面会等は、タブレット型端末を活用して行いました。

ウ　事故・ヒヤリハット、苦情・要望の公表等透明性の高い施設運営

事故発生時の家族への説明、長野県への報告等を積極的に行いました。また、事故・ヒヤリハットの分析では、発生状況の再現、原因の分析及び意見交換を行い、職員体制を見直すなど再発防止を徹底しました。

苦情・要望については、第三者委員及び保護者コーディネーターへの報告会を年３回（コロナ感染症対応のため、８月は書面報告、１１月及び３月は報告会を開催）行い、透明性の確保、風通しの良い環境づくりに努めました。

エ　支援力の向上、質の高い支援

個別支援計画の見直しや事故・ヒヤリハットの検証を行い、利用者一人ひとりの状況に合わせた対応を行うよう努めました。また、必要に応じてマニュアル化を行いました。

オ　職員研修

施設内研修として、外部講師による感染予防（ＨＩＶ、コロナウイルス、肝炎、ノロウイルス等）研修を年２回行いました。また、看護師によるガウンテクニック訓練を支援員に繰り返し実施し、実践に役立てる取組みの強化を図りました。

先進施設の見学及び外部研修は、コロナ感染症の影響で実施できませんでしたが、リモート研修等可能な範囲で各種研修に参加しました。

⑵　地域とのつながり

ア　「みすぎの森」利用者の日中活動の支援

コロナ感染症対応を行いながら、日中活動の場として積極的に受入れを行いました。

イ　短期入所の受入れ

可能な範囲で受入れを実施しました。また、行政機関の緊急受入要請に対応しました。

ウ　避難訓練等

避難訓練は、７月、１１月の２回、防犯訓練は１０月に１回行いましたが、コロナ感染症の影響で施設のみの対応となり、自衛消防協力員の参加は見送りました。この間、自衛消防協力員の皆さんと定期的に連絡を取り、今後の実施に向けての協力体制を維持することに努めました。

エ　行事への参加

すべての行事が施設のみの対応となったため、地域の方々との対面での交流には至りませんでしたが、地域の文化祭に「ささらの里」利用者が創作活動として作成した作品を展示していただく等の取組みを行いました。

オ　広報誌の発行等

「ささらの里だより」を年２回、６月と１２月に発行し、地域や関係機関に情報を発信しました。また、保護者の面会制限があるなか、日々の活動の様子を写真にして「ささらの里だより号外」として２か月に１回保護者宛に発行しました。

⑶　職員が笑顔で働ける職場風土の醸成

ア　職員意識アンケート

前年度のアンケート結果の対応策として、職員のコミュニケーションを図ることを目的とし、小グループによるミーティングを行いました。結果として、日頃の悩みなどを話し合う有意義な機会であったとの評価を得られたため、今後も継続することとしています。

イ　チューター制度

職員全員が一丸となって、新任職員が成長できる環境作りを行いました。

ウ　勤務体制の見直し

日課の見直しや勤務体制の工夫等により職員が働きやすい環境を整えました。

３　特記事項

⑴　嘱託医の交代

長年務めていただいた渡辺内科から藤森病院に嘱託医が変更になりました。嘱託医との連携を強化し、より円滑な受診、入院が可能になりました。

⑵　事故の発生

利用者の高齢化及び重度化や障がいの多様化に加え、骨粗しょう症の利用者が多いなか、今年度、指の骨折が２例、上腕骨の骨折が１例発生したため、事故報告書に基づき検証を行いました。今後も細心の注意を払い、支援方法を点検することについて再確認しました。

⑶　感染症対策

コロナ禍において長野県の感染警報レベルに応じての対策を取るとともに、感染予防に努めました。また、実際に感染症が施設に入った場合のゾーニングや勤務体制などのシミュレーションを実施し、職員に周知しました。

⑷　非常用自家発電設備の整備

「社会福祉施設等整備事業補助金」の交付を受け、非常用自家発電設備を設置しました。工事の際は一定時間停電となり、はからずも利用者及び職員が災害時の停電を疑似体験する機会となり、気づきや意識の向上につながりました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		３０年度	元年度	２年度(b)	
生活介護事業	５９	６６	６４	６５	6
施設入所支援事業	５０	５１	５１	５１	1

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	4	3	1
施設入所支援事業	3	3	0

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位:人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	1	１２	4	3	5	２５	５７．３	５８．８
女	6	7	4	3	6	２６	５６．６	５３．２
計	7	１９	8	6	１１	５１	５６．９	５６．０

イ　通所　（単位:人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	6	0	1	1	0	8	３７．５	４０．１
女	3	2	1	0	0	6	３９．８	３８．５
計	9	2	2	1	0	１４	３４．５	３９．３

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	１	１	２３	２５	５．８	５．８
女	０	０	０	０	６	２０	２６	５．７	５．７
計	０	０	０	１	７	４３	５１	５．８	５．８

イ　通所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	０	１	７	８	５．８	６．０
女	０	０	０	０	１	５	６	５．８	５．８
計	０	０	０	０	２	１２	１４	５．８	５．９

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１４	０	５	１	１	４	０	０	２５
女	１６	１	４	０	１	２	１	１	２６
計	３０	１	９	１	２	６	１	１	５１

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	３	０	１	０	０	０	０	４	８
女	１	０	２	０	０	１	０	１	６
計	４	０	３	０	０	１	０	５	１４

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	２２	３	０	０	０	０	２５
女	１６	８	１	０	０	０	２５
計	３８	１１	１	０	０	０	５０

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	３	１	１	１	６
女	１０	１	０	０	１１
計	１３	２	１	１	１７

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	0	0	0	0
女	2	0	0	2
計	2	0	0	2

5　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	随時　お花見散歩、２６日　春の食事会
５月	随時　ドライブ外出、４日　初夏のおやつ会
６月	随時　七夕飾り作り、９日　布団交換
７月	１６日　夜間総合避難訓練
８月	２日　夏祭り、４日　歯科巡回診療、６日　防犯研修、７日・８日　衣料品訪問販売
９月	随時　ドライブ外出、１１日　保護者会草刈り
１０月	４日・１１日、ワックスがけ、１７日　布団交換、 １８日　非常用発電装置工事による停電、２５日　秋祭り
１１月	１日　秋祭り後夜祭花火大会、６・７日衣料品訪問販売、 １１日　胸部レントゲン、１７日　第三者委員報告会、 １８日　そばを賞味する会、２０日　昼間避難訓練、 ２８日　感染症研修
１２月	６日　重大事故に学ぶ職員全体研修、１７日　特製カレー会、２０日　クリスマス会
１月	１日　ドライブ外出、１９日　新年食事会、１３日　職員グループ会議以降１０回実施（１月から３月まで）、２８日　そばを賞味する会
２月	２日　節分、２８日　故利用者を偲ぶ会
３月	３日　ひなまつり食事会、８日　第三者委員報告会、１２日そばを賞味する会、１２日　非常用自家発電設備整備工事竣工
通年	ぴあカウンセリング、ソーイングボランティア（郵送対応）、そば打ち（３回）、郵便局ボランティア（布団交換）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	１０	２１４	カラオケ、中庭で歌う、ＢＧＭを聞きながら読み聞かせ

園芸クラブ	６	１０１	企画、野菜花の種まき、手入れ管理、収穫など
芸術クラブ	１１	１４９	創作活動・書道・塗り絵
おひさまクラブ	１０	４７	オイルマッサージ、足浴、ホットタオル、機能維持訓練
ＤＴＶ鑑賞	８	１３２	鬼滅の刃、ドリフターズ、仁等
散歩・日光浴	１０	１３４	小池神社、小池公園、ドライブなど
季節のレクリエーション	７	１２８	福笑い、七夕、節分、塗り絵、体操
エンパワメント	９	８１	企画、百人一首に関する調査発表、短歌作成、カレンダー制作
計	７１	９８６	

６　健康管理状況

⑵　健康診断･検査　（単位:人）

区分・年度		実人数			延人数		
		30 年度	元年度	2 年度	30 年度	元年度	2 年度
病院	精神科検診	15	15	15	143	143	132
医院	内科検診	52	52	51	104	102	102
その他の医療機関	歯科検診	52	52	51	52	52	51

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	30 年度	元年度	2 年度	30 年度	元年度	2 年度
受診状況	52	52	51	1,948	2,669	2,321
入院状況	17	22	15	661	911	499
施設内処置状況	52	52	51	2,160	2,160	5,064
機能訓練実施状況	52	52	51	2,160	2,160	1,357
合計	173	178	168	6,929	7,324	9,241

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	５５，６０８	５１，９９６	５４，０４３
職員等	２，４２５	２，４５５	２，１７１
計	５８，０３３	５４，４５１	５６，２１４

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，６００kcal	１，６１５kcal
タンパク質	６５．０ｇ	６３．４ｇ
脂質	４５．０ｇ	４７．１ｇ

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	２７	２７	２３	週１回 日曜日
	軟飯	０	０	０	
	粥食	１３	１３	１６	
	ミキサー食・ゼリー食	５	５	５	
副食	常食	１０	１０	１１	
	粗刻み	１１	１１	９	
	細刻み・刻み	１９	１９	１９	
	ミキサー食・ゼリー食	５	５	５	
	経管栄養	６	６	６	
	計	５２	５１	５０	

8　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
短期入所事業	4	4	4	22	29	19	629	662	523
日中一時支援事業				3	4	2	18	15	15
タイムケア事業				1	0	0	4	0	0

令和２年度　こきりこささら事業報告

１　事業目標

⑴　安全で質の高いサービスの提供
⑵　チームによる支援力の向上
⑶　透明性の高い施設運営
⑷　平均利用者数の目標達成に向けた取組み

２　取組結果

⑴　安全で質の高いサービスの提供

ア　外出支援

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）対策のため、外出はほとんど行うことができませんでしたが、年度末に実施した利用者満足度アンケートの要望等を尊重し、外食の楽しみを兼ねてテイクアウトメニューを取り入れ、利用者から好評を得ました。

イ　機能維持訓練

コロナ感染症防止対策を行いながら、利用者の希望に沿った歩行訓練、立ち上がり訓練、ストレッチ、マッサージ等できる範囲の対応を行いました。

ウ　介護方法の指導及び健康指導

介護方法に特別な配慮が必要な重度利用者のお宅に支援員が伺い、訪問入浴の看護師から入浴方法の指導を受ける等利用者の支援に関する情報共有を行うことで安全なサービスの提供に努めました。

エ　防災及び健康対策

防災訓練を１１月に実施し、利用者、職員ともに防災意識の向上につながりました。また、毎月、事故・ヒヤリハットを検証し、職員の意識向上を図りました。

オ　相談援助

関係機関と連携し、コロナ感染症の状況に配慮しながら、利用者のケア会議等を行いました。

カ　地域活動支援センター事業

利用者の日中の居場所として、充実して過ごしていただくため、希望に応じた創作活動、レクリエーション等の活動を行いました。

⑵　チームによる支援力の向上

ケア会議に積極的に参加し、家族及び他事業所との連絡が密になる体制を構築しました。また、会議内容は全職員に周知し、情報共有を図りました。

⑶　透明性の高い施設運営

送迎時、利用者家族とのコミュニケーションを図るほか、連絡ノートを活用し、家族との信頼関係の構築に努めました。

苦情解決第三者委員・保護者コーディネーター報告会（年３回実施）では、事故・ヒヤリハット及び苦情・要望について報告しました。

⑷　平均利用者数の目標達成に向けた取組み

新規利用希望者については、関係機関及び家族と調整し、４人の方が利用を開始しました。また、コロナ感染症対策を行いながら、利用日の増や利用日以外の利用調整等を行いました。さらに、「ささらの里」及び「みすぎの森」のショートステイ利用者の受入れも積極的に行い、希望に沿った支援をすることができました。

今年度目標１日平均利用者数は２０人でしたが、高齢の利用者が介護保険施設に移行したことや長期入院等により、１日平均利用者数は、１７.８３人で前年度と比べ０.９２人の減となりました。

３　特記事項

外出支援（外食）ができない代わりに、テイクアウトメニューでの食事提供を行いました。利用者の希望をメニューに反映させる等楽しいと思っていただける企画を増やしました。また、コロナ感染症への対応として、日常的な利用者及び職員の健康管理に加え、「密閉」、「密集」及び「密接」の３つの「密」を避ける取組みや換気等を定期的に行うなど感染予防に努めました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		３０年度	元年度	２年度(b)	
生活介護事業	２０	６６	６８	６７	４７
地域活動支援センター事業	１０	6	7	7	△３

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	3	4	△１
地域活動支援センター事業	2	2	0

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１４	１６	5	6	7	４８	５２.０	５１.８
女	１１	7	3	2	3	２６	４６.８	４５.５
計	２５	２３	8	8	１０	７４	５０.１	４９.４

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	５	１３	７	７	１６	４８	４．３	４．３
女	０	４	３	７	４	８	２６	４．３	４．４
計	０	９	１６	１４	１１	２４	７４	４．３	４．３

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	４４	０	４	０	０	０	０	０	４８
女	２０	０	３	０	０	２	０	１	２６
計	６４	０	７	０	０	２	０	１	７４

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	２６	１０	４	１	０	１	４２
女	９	１１	２	１	０	０	２３
計	３５	２１	６	２	０	１	６５

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	１１	０	２	２	１５
女	８	１	３	０	１２
計	１９	１	５	２	２７

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	１	２	０	３
女	１	１	０	２
計	２	３	０	５

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	お花見撮影会、創作活動（棟内飾付け）、ゲーム（風船バレー）
５月	創作活動（一輪挿し）
６月	創作活動（一輪挿し）、ゲーム（クイズ）
７月	創作活動（風鈴）、ゲーム（トランプ）
８月	行事食（うなぎ）、創作活動（ペーパービーズアクセサリー）、ゲーム（射的）
９月	行事食（お弁当）、創作活動（ペーパービーズアクセサリー）、ゲーム

	（ボーリング・ストラックアウト）
１０月	紅葉見学、創作活動（壁飾り）、ゲーム（ハロウィン・ボーリング）
１１月	行事食（そば）、紅葉見学、避難訓練、創作活動（ミニクリスマスツリー）
１２月	クリスマス会、ゲーム（ビンゴ）
１月	行事食（そば）、書初め、新年会、創作活動（干支の置物）、ゲーム（福笑い・カルタ）
２月	行事食（お弁当）、満足度アンケート実施、豆まき、創作活動（つるし飾りの置物・あまびえ壁面創作）、ゲーム（クイズ）、調理実習（クレープ）
３月	行事食（ひな祭り・お弁当・そば）、記念撮影、創作活動（写真立て）、調理実習（ワッフル）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
創作活動	８１	４０５	一輪挿し、風鈴、アクセサリー、干支の置物、書初め、写真立て等
調理実習	２３	９０	かぼちゃのムース、ロールケーキ、クレープ、ワッフル
映画鑑賞等	５２	２７４	映画、ドラマ、アニメ、ライブ映像、コント、ドキュメント等
機能維持訓練（自主訓練含む。）	６０	１,１４４	歩行訓練、車いす自走訓練、立ち上がり、ストレッチ、マッサージ、エスカルゴ等
ゲーム	４８	３５６	風船バレー、クイズ、射的、ボーリング、ビンゴ、福笑い、カルタ等
計	２６４	２,２６９	

６　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	４,９３２	４,９１１	４,７９７
職員等	７８８	７５２	７６６
計	５,７２０	５,６６３	５,５６３

⑵　平均摂取栄養量（１食）

区分	目標値	実績
エネルギー	６４０kcal	６３４kcal
タンパク質	２７ｇ	２３．８ｇ
脂質	１７ｇ	２１．２ｇ

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	６２	６１	６２	なし
	粥食	６	８	５	
副食	常食	５９	６０	５８	
	細刻み	２	７	７	
	粗刻み	７	２	２	
ミキサー食・ゼリー食		２	１	２	
経管栄養		３	５	５	
計		７３	７５	７４	

７　日中一時支援事業等状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
日中一時支援事業	１０	１０	１０	６	７	６	１８８	２０６	２３８

令和２年度　みすぎの森事業報告

１　事業目標

⑴　個別の希望に合わせた生活支援

⑵　地域交流及び社会体験の推進

⑶　支援体制の強化

２　取組結果

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の予防対策を行ったうえで活動しました。

⑴　個別の希望に合わせた生活支援

ア　利用者の身体機能維持及び健康管理は、訪問看護事業所と連携して継続的に個別対応を行いました。特に通院が困難な３人の方については、新たに訪問リハビリテーションの利用を開始し、さらに医療的ケアが必要な３人の方は、訪問看護を導入しました。

イ　外出制限があるなか、余暇活動及び社会活動参加のための情報提供を行いました。可能な限り利用者個々の希望に合わせ、外部事業所の利用を含め外出予定の調整を行いました。

⑵　地域交流及び社会体験の推進

ア　コロナ感染症の影響で日帰り旅行は実施できませんでした。しかし、感染症対策を講じながら、ドライブ外出や季節に応じたレクリエーション（流しそうめん、花火大会、バーベキュー、クリスマス会、恵方巻きつくり等）を行いました。

イ　コロナ感染症予防のため、地域の学校との交流事業、行事への参加はできませんでしたが、ボランティアの方への感謝の気持ちを文書にして伝える等、情報発信を行ないました。また、家族に対しては、「みすぎの森新聞」を発行し、日常生活の状況をお伝えしました。

ウ　短期入所事業では、グループホーム生活を考えている方々への体験の場を提供しました。また、関係機関と連携して緊急的な受入れを行いました。

エ　養護学校卒業後の生活の場として宿泊体験の機会を提供しました。

⑶　支援体制の強化

「みすぎの森」及び「第２みすぎの森」の職員が両ホームの勤務に入ることで、利用者の容体変化や緊急時に連携して対応できる体制を整えました。

３　特記事項

⑴　個別的な支援として

退院した利用者の食事形態の変更に伴い、世話人と業務の確認を併せた研修会を行い、ゼリー食の提供ができるようになりました。

⑵　職員の情報共有について

定期的なミーティングに加え、小グループのミーティングを年３回実施し、よりきめ細かなコミュニケーションを図ることができました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)−(a)
		３０年度	元年度	２年度(b)	
共同生活援助事業	１４	１４	１３	１４	０

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
共同生活援助事業	１	０	１

⑶　年齢別状況　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	６	０	１	１	０	８	３０．５	４０．１
女	３	２	１	０	０	６	３９．８	３８．５
計	９	２	２	１	０	１４	３４．５	３９．３

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	０	１	７	８	５．８	６．０
女	０	０	０	０	１	５	６	５．８	５．８
計	０	０	０	０	２	１２	１４	５．８	５．９

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	３	０	１	０	０	０	０	４	８
女	１	０	２	０	０	２	０	１	６
計	４	０	３	０	０	２	０	５	１４

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	８	０	０	０	０	０	８
女	５	１	０	０	０	０	６
計	１３	１	０	０	０	０	１４

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	6	0	0	0	6
女	3	1	0	0	4
計	9	1	0	0	１０

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	お花見散歩（４月中）、２６日　春のお食事会参加
５月	４日　選択お弁当
６月	ドライブ外出（４日、６日、８日、１０日）
７月	１６日　夜間総合避難訓練
８月	１４日　納涼花火大会、２９日　パンバイキング
９月	５日　流しそうめん
１１月	１日　秋祭り後夜祭花火大会参加
１２月	６日　クリスマス忘年会
１月	１９日　新年会
２月	３日　節分・恵方巻つくり ドライブ外出（２４日、２５日、２６日）
３月	６日　ひな祭り、３１日　利用者と職員の送別会

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数			延人数		
		３０	元	2	３０	元	2
病院	歯科検診	１４	１４	１４	１４	１４	１４
	胸部レントゲン	１４	１４	１４	１４	１４	１４

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	３０年度	元年度	２年度	３０年度	元年度	２年度
受診状況	14	14	14	249	279	335
入院状況	1	3	4	25	109	146
施設内処置状況	14	13	0	62	1,585	1, 365
機能訓練実施状況	14	13	0	2,436	2,201	2,529
合計	43	43	18	2,817	4,147	4,375

７　短期入所事業等実施状況　　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
短期入所事業	2	2	2	19	16	16	263	206	249
体験宿泊事業				1	3	1	3	11	2

（注）体験宿泊事業は、宿泊を伴わない日中のみの体験者が対象

令和２年度　共立学舎事業報告

１　事業目標

⑴　利用者本位の安心・安全なサービスを提供します。
⑵　地域との交流及び地域に対する情報発信を行います。
⑶　利用者に配慮した施設環境の整備及び防災対策に取り組みます。
⑷　職員が働きやすく、明るい職場環境を作ります。

２　取組結果

⑴　利用者本位の安心・安全なサービスの提供

ア　新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）対策のため、入所者とグループホーム、通所者に分かれて日中活動を行いました。「３密」を避けるための対応として、行事も施設内で、ソーシャルディスタンスをとるなどの配慮をして実施しました。

イ　外出、外泊の自粛により施設内で生活する時間が長くなったことから、室内で楽しめる出張販売やレクリエーション、軽運動に加え、散歩、畑作業、ドライブ等、安全を保ちながら外に出る機会を増やしました。また、訪問歯科を導入し、健康の基礎となる歯科メンテナンスの充実と職員の歯磨き支援への意識を高めました。

ウ　スポーツボイス（音楽に合わせ呼吸を意識しながら体を動かすこと）のインストラクターを招き、楽しみながら身体機能の維持、回復に努めました。

⑵　地域との交流及び地域に対する情報発信の実施

コロナ禍の中、施設内での生活を心配されている保護者に向け、「おひさま新聞」を年４回発行し、日々の情報発信を行いました。

⑶　利用者に配慮した施設環境の整備及び防災対策への取組み

ア　防災関係では、水害を想定し、施設２階に避難する訓練を試みました。

イ　コロナ感染症対策のため、面会室を準備し、「３密」を避けるためのパーテーションを設置する等の安全面に配慮しながら快適に過ごせるように努めました。

⑷　職員が働きやすく、明るい職場環境の創出

ア　臨時職員、パート職員を増員し、昼休みの当番制を実施するなど、休憩時間が確保できるようにしました。

イ　「早番」及び「遅番」を導入し、誤薬の防止と事故防止に努め、安心して働ける職場づくりに努めました。

３　特記事項

介護保険優先原則の下、介護保険サービスを受給できる利用者は、機会をとらえて高齢者施設への移行を進めておりますが、令和２年度は利用１人が高齢者施設へ移行

しました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	令和２年度末現員			差引 (b)－(a)
		３０年度	元年度	２年度(b)	
生活介護事業	５５	５７	６２	６０	５
施設入所支援事業	３０	２９	３０	２９	△１

⑵　令和２年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	０	１	△１
施設入所支援事業	０	１	△１

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	２	７	４	１	２	１６	５４．３	５４．１
女	０	６	２	２	３	１３	５９．４	５６．０
計	２	１３	６	３	５	２９	５６．８	５４．９

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	５	１２	１	１	１	２０	４６．４	４４．５
女	３	５	０	２	１	１１	４８．８	４８．７
計	８	１７	１	３	２	３１	４７．６	４５．８

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	２	７	７	１６	５．３	５．３
女	０	０	１	３	７	２	１３	４．７	４．８
計	０	０	１	５	１４	９	２９	５．０	５．２

イ　通所　（単位：人）

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	１	１０	７	２	２０	４．５	４．４
女	０	０	１	６	４	０	１１	４．２	４．３
計	０	０	２	１６	１１	２	３１	４．４	４．３

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１０	0	1	0	1	3	0	1	１６
女	7	0	0	5	0	0	0	1	１３
計	１７	0	1	5	1	3	0	2	２９

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１４	0	4	0	0	2	0	0	２０
女	6	0	2	0	1	2	0	0	１１
計	２０	0	6	0	1	4	0	0	３１

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	0	1	0	1	0	0	2
女	0	1	1	0	0	0	2
計	0	2	1	1	0	0	4

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	２３	0	１２	1	３６
女	7	2	１２	0	２１
計	３０	2	２４	1	５７

5　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
５月	５日　入所利用者「お楽しみ会」
６月	１日　環境整備、１８日　防災訓練
７月	１、３日　利用者健康診断、６日　七夕会、２７日　夜間避難訓練
８月	３日　環境整備、６日　納涼（焼肉）会、２７日　水防訓練
９月	１日　歯科大巡回診療、１７日　利用者内科健診、２４日　軽運動会「お楽しみ会」、２５日　防犯訓練
１０月	２１日　環境整備、２８日　共立祭
１１月	１９日　インフルエンザ予防接種
１２月	８日　衣料品販売、２１日クリスマス会、１５日　消火訓練、２３日　イオンリテール様から洗濯機寄付、２５日忘年会
１月	１５日　三九郎

２月	１日　節分、１５日消火訓練
３月	３日　ひな祭り、１６日　慰労会

６　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数			延人数		
		３０	元	２	３０	元	２
病院	精神科検診	３０	３０	３０	３１４	３０１	３７２
医院	内科検診	５６	６０	６０	５６	６０	６０
その他の医療機関	歯科検診	６０	６０	２２	９７	６９	２２

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	30 年度	元年度	2 年度	30 年度	元年度	2 年度
受診状況	31	37	32	315	628	293
入院状況	2	4	3	75	77	91
施設内処置状況	25	43	40	1,302	3,404	3,360
合計	58	78	75	1,692	4,203	3,744

７　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	３６,５８７	３７,５２４	３７,１１６
職員等	２,５４９	２,５１０	２,６４８
計	３９,１３６	４０,０３４	３９,７６４

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	２，０００kcal	２，０６３kcal
タンパク質	７０～８０ｇ	７９．４ｇ
脂質	４５～５０ｇ	５３．４ｇ

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	４８	４７	５０	毎日
	粥食	８	９	７	
副食	常食	４５	４６	３７	
	細刻み	１	２	３	
	粗刻み	１０	８	１７	
ミキサー食・ゼリー食		１	３	２	
計		５７	５９	５９	

８　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
短期入所事業	2	2	2	10	10	7	478	498	463
日中一時支援事業				10	12	8	941	719	259

（注）空床利用１

令和２年度　第２共立学舎事業報告

１　事業目標

⑴　利用者の工賃向上に取り組みます。
⑵　利用者の自立に向けた意思決定支援に努めます。
⑶　職員の資質の向上に努めます。
⑷　防犯・防災対策に取り組みます。

２　取組結果

⑴　工賃の向上に向けた取組み

ア　受託チーム

(ｱ)　施設外就労は、公園の花壇整備、道の駅のトイレ清掃、除草作業などを計画どおり実施することができました。県施設の清掃は４月、５月に８回を予定していましたが６回の実施にとどまりました。

(ｲ)　法人内施設清掃及び業務実習については、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）の予防対策として４月から７月まで一部を除いて中止になりましたが、７月２０日から再開しました。また、１月の松本圏域の警戒レベルが上がったときには、感染予防対策として通所利用者とグループホームの利用者を分離して法人内施設清掃及び業務実習を行いました。

(ｳ)　児童手当や肺炎球菌ワクチン接種に係る通知や啓発ポスターの封入作業は計画どおり実施することができました。

　しかし、サッカーＪ２のホームゲームスタジアムバッグ封入作業は、コロナ感染症防止のため無観客試合となった影響で、封入作業は年５回の予定のところ３回の実施になりました。

イ　リサイクルチーム

(ｱ)　コロナ感染症予防のため回収ルートを見直し効率化を図るとともに、昨年度に比べ回収量を増やすことができました。

　しかし、４月に古紙の価格単価（段ボール６円→５円／ｋｇ、新聞７円→６円／ｋｇ）が下がったことに加え、コロナ感染症関連で収入減となりました。そのため、取引業者の都合で休止していた鉄くず回収を再開し、６万５千円の増収になりました。また、新規開拓し、トマト畑のマルチ撤去作業を１４万円の収入増、アルミ缶、牛乳パックの回収は、それぞれ６９０ｋｇ、２６１ｋｇの回収増の実績がありました。

(ｲ)　廃食用油の一斉回収を７月と９月にそれぞれ行い、１９，９４０ℓの実績がありました。

(ｳ)　コロナ感染症関連で減少した工賃確保のため、法人内や回収先、取引先、

利用者の家族にトイレットペーパーの購入を協力いただき、８万５千円を販売しました。

⑵　利用者の自立に向けた意思決定支援

利用者本人のニーズを大切にした個別支援計画を作成し支援を行うとともに、作業内容等で本人の意思確認を行いました。連絡ノートを活用することで家族の意向を汲み、支援につなげました。

⑶　職員の資質の向上

より良い支援につなげるため、朝夕の引継ぎ、会議等において言葉遣いや支援の方法について課題を出し合い確認しました。また、利用者の情報を共有し、職員間で共通の認識に立った支援を行いました。コロナ感染症の影響で研修会に参加できないことが多くありましたが、ＷＥＢ会議形式で参加することができました。会議等で報告し、情報を共有して、自己研鑽を重ね資質の向上に努めました。

⑷　防犯・防災対策

年２回、各関係機関の指導を受け、常に施設内でいざという時の行動について意識し、職員全体で確認を行いました。

３　特記事項

⑴　令和３年１月から３月までの間､入院､治療に伴う長期欠席者が１人いました。

⑵　経営健全化の観点から、就労関連事業所の「松本障害者雇用支援センター」と統合の協議を進め、令和３年４月から新たな多機能型事業所として運営を継続することとしました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員	年度末現員			差引
	(a)	３０年度	元年度	２年度(b)	(b)-(a)
就労継続支援Ｂ型事業	４０	３９	３９	４０	1

⑵　令和２年度異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
就労継続支援Ｂ型事業	1	0	1

⑶　年齢別状況　（単位:人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	１４	7	1	0	1	２３	３７．８	３７．３
女	4	１１	1	1	0	１７	４５．２	４４．０
計	１８	１８	2	1	1	４０	４０．９	４０．１

⑷　障害支援区分認定状況　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	５	６	７	０	０	１８	３．１	３．１
女	１	２	５	６	２	０	１６	３．３	３．３
計	１	７	１１	１３	２	０	３４	３．２	３．２

⑸　地域別利用者数　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１７	０	１	３	１	１	０	０	２３
女	７	０	２	３	０	２	０	３	１７
計	２４	０	３	６	１	３	０	３	４０

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	０	０	１	０	０	０	１
女	１	０	０	０	０	０	１
計	１	０	１	０	０	０	２

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	８	１	１２	２	２３
女	５	０	１０	０	１５
計	１３	１	２２	２	３８

５　生活及び活動の状況

行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１日　新年度顔合わせ会
７月	７日　利用者内科検診
８月	６日　暑気払い
９月	１日　歯科検診、２９日　避難訓練
１１月	１０日　１０周年記念行事、１８日　防犯訓練、１９日　インフルエンザ予防接種
１２月	１５日　消火訓練、１７日　クリスマス会
１月	１５日　三九郎
２月	２日　節分、１５日　消火訓練、２４日　避難訓練
３月	１１日　親睦会（新年会）、１６日　慰労会

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数			延人数		
		３０	元	２	３０	元	２
病院	精神科検診	５	５	５	３８	６０	６０
医院	内科検診	３５	３５	３５	３５	３５	３５
その他の医療機関	歯科検診	２１	２０	２７	４２	４０	２７

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	30 年度	元年度	2 年度	30 年度	元年度	2 年度
受診状況	１０	８	６	９５	８３	３１
入院状況	０	１	１	０	５３	１６
施設内処置状況	０	１２	６	０	４０	１２
機能訓練実施状況	０	０	０	０	０	０
合計	１０	２１	１３	９５	１２３	５９

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	８，４７４	７，９９５	７，５５３
職員等	６４９	６４４	７９８
計	９，１２３	８，６３０	８，３５１

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	２，０００kcal	２，０６３kcal
タンパク質	７０～８０ｇ	７９．４ｇ
脂質	４５～５０ｇ	５３．４ｇ

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	３８	３７	３９	なし
	粥食	０	０	０	
副食	常食	３７	３６	３６	
	細刻み	０	０	０	
	粗刻み	１	１	３	
ミキサー食・ゼリー食		０	０	０	
計		３８	３７	３９	

８　生産活動の状況

⑴　廃油回収量　（単位：ℓ）

区分	入			出		
	前年度繰越	当年度回収	合計	使用量	出荷量	次年度繰越
３０年度	0	20,789	20,789	0	20,789	0
元年度	0	15,770	15,770	0	15,770	0
２年度	0	19,940	19,940	0	19,940	0

⑵　支給工賃総額　（単位：円）

平成３０年度	令和元年度	令和２年度
１１，５５０，５９６	１１，３５２，７１３	１１，４０３，３７７

令和２年度　あい・アドバンス今井事業報告

１　事業目標

⑴　信頼される福祉サービスの実現

⑵　地域との連携の拡充

⑶　職場における連携及び協力体制の強化

２　取組結果

⑴　信頼される福祉サービスの実現

ア　個別支援計画策定のなかで、利用者一人ひとりの思いを汲み、組織としての検討をもとに支援につなげる取組みを実施しました。また、自閉症セミナー等をはじめ、研修での内容を実際の支援の現場に活かし、利用者が落ち着いて過ごせる環境づくりに努めました。

イ　災害に対する避難マニュアルの見直しを行い、火災、地震、不審者等様々な対応訓練を実施しました。

⑵　地域との連携の拡充

ア　新型コロナウィルス感染症（以下「コロナ感染症」といいます。）対策のため、地域との交流に制限をしながらの一年でしたが、状況に応じて養護学校実習生７人と短期大学実習生２人の受入れができました。

イ　短期入所は感染防止のため、他事業所を利用する方の利用期間を延長したため、例年より延べ利用人数が増加しました。

⑶　職場における連携及び協力体制の強化

ア　業務手順の明確化のため、「サービス提供マニュアル」等の見直し整備に取り組み、職員間の情報共有と連携につなげました。

イ　朝礼時に「あい・アドバンス今井職員行動規範」とともに、ワンチームを目指したキーワード「品位・規律・リスペクト」を唱和し、意識の改善に取り組みました。

３　特記事項

⑴　コロナ感染症拡大防止のなかでの日中活動等

ア　日中活動

外出の機会が減ってしまった日中活動でしたが、日常の班活動とは別にクラブ活動の充実に取り組みました。これまでは不定期で行っていた音楽・アート・軽運動クラブを月の日課に組み入れ、より多く利用者に参加いただきました。

イ　行事

旅行の中止をはじめ、行事の縮小、外部との交流の見合せなど、「３密」を回避するため、少人数の利用者ごとで行事を行い、より一人ひとりが楽しめる行事

を行うことができました。

ウ　感染予防

定期的に「感染症対策委員会」を開催して、感染予防に取り組みました。また、定期的な消毒清掃の実施や日常の換気など職員の意識の改革につながりました。

⑵　強度行動障がい者への対応

圏域で課題となっている強度行動障がい者への対応については、関係者や他事業所との連携をはかりながら検討会に参加するなど、情報の共有を図りました。

また、少しでも利用者や家族の要望に応えられるように、短期入所、生活介護、日中一時事業等を活用しました。

⑶　人員配置体制加算変更による収入の増

パート支援員の勤務時間が増えたため、介護給付費の人員配置体制加算を変更することができ、生活介護事業と施設入所支援事業の給付費収入が年間を通して増加しました。

４　利用者の状況（令和３年３月３１日現在）

⑴　利用定員及び現員　（単位：人）

区分	定員 (a)	年度末現員			差引 (b)-(a)
		３０年度	元年度	２年度(b)	
生活介護事業	６０	６２	７１	６８	８
施設入所支援事業	５０	４７	４９	５０	０

⑵　異動状況　（単位：人）

区分	新規利用者数	利用終了者数	差引
生活介護事業	０	３	△３
施設入所支援事業	１	０	１

⑶　年齢別状況

ア　入所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	４	８	３	６	５	２６	５６．３	５５．３
女	９	４	２	４	５	２４	５０．６	５０．０
計	１３	１２	５	１０	１０	５０	５３．４	５２．６

イ　通所　（単位：人）

区分	18～39 歳	40～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上	計	平均年齢	前年度平均年齢
男	７	１	１	０	２	１１	４３．８	３９．０
女	２	２	０	１	２	７	５２．０	４７．２
計	９	３	１	１	４	１８	４７．９	４３．１

⑷　障害支援区分認定状況

ア　入所　（単位：人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	０	２	９	１５	２６	５．５	５．５
女	０	０	０	３	６	１５	２４	５．５	５．５
計	０	０	０	５	１５	３０	５０	５．５	５．５

イ　通所　（単位:人）

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計	平均区分	前年度平均区分
男	０	０	１	１	６	３	１１	５．０	５．０
女	０	０	０	１	４	２	７	５．０	５．０
計	０	０	２	２	１０	５	１８	５．０	５．０

⑸　地域別利用者数

ア　入所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	１７	０	５	１	０	２	０	１	２６
女	１５	１	０	３	０	４	０	１	２４
計	３２	１	５	４	０	６	０	２	５０

イ　通所　（単位：人）

区分	松本市	大町市	塩尻市	安曇野市	木曽郡	東筑摩郡	北安曇郡	その他	計
男	６	０	２	２	０	１	０	０	１１
女	５	１	０	０	０	１	０	０	７
計	１１	１	２	２	０	２	０	０	１８

⑹　障がい状況

ア　身体障害者手帳所持状況　（単位：人）

区分	身体１級	身体２級	身体３級	身体４級	身体５級	身体６級	計
男	３	５	２	２	２	１	１５
女	５	１	０	３	０	０	９
計	８	６	２	５	２	１	２４

イ　療育手帳所持状況　（単位：人）

区分	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	計
男	３０	２	５	０	３７
女	２６	０	３	２	３１
計	５６	２	８	２	６８

ウ　精神障害者保健福祉手帳所持状況　　（単位：人）

区分	１級	２級	３級	計
男	1	0	0	1
女	3	0	0	3
計	4	0	0	4

５　生活及び活動の状況

⑴　行事等実施状況

月	行事等の内容
４月	１６日　お花見会、１９日　家族会総会
５月	１４日　避難訓練
６月	９日　布団交換
７月	１４日　七夕会、１６日　避難訓練、１９日　家族会ボランティア作業・班別懇談会①、２１日　松本市医師会検診
８月	４日　納涼祭、１８日　感染症研修会、２７日　防犯訓練
９月	４日　夜間総合避難訓練、６日　家族会ボランティア作業・班別懇談会②、２７日　家族会ボランティア作業・班別懇談会③
１０月	１５日　布団交換、２０日　あい・今井祭（利用者・職員のみ）、２９日　避難訓練
１１月	５日　インフルエンザ予防接種、１２日　防災訓練
１２月	１７日　クリスマス会
１月	１５日　三九郎
２月	２日　節分豆まき、４・１０日　虐待防止研修、２５日　避難訓練
３月	２日　ひな祭り、６日　家族会理事会
通年	精神科検診（毎月）、訪問歯科診療（毎月）、訪問マッサージ（毎週）、訪問理髪（毎月）
通年	環境整備（毎月）、館内消毒・清掃（毎週２～３回）

⑵　クラブ及びレクリエーションの実施状況

クラブ名	実施回数	参加延人数	活動の状況
音楽クラブ	7	２５０	楽器演奏、合唱、ダンス等
軽運動クラブ	8	２２２	ボール遊び、ダンス、散歩等
アートクラブ	3	３５	絵画の作成、カレンダー制作等
計	１８	５０７	

6　健康管理状況

⑴　健康診断・検査　（単位：人）

実施機関	内容	実人数			延人数		
		３０	元	２	３０	元	２
病院	村井病院 精神科検診	５７	５８	６０	５７０	５７６	５９８
医院	医師会 内科検診	５７	５７	５６	５７	５６	５４
その他の医療機関	歯科検診	５５	５７	５６	６０５	６１８	６１０

⑵　受診人数等　（単位：人・日）

区分・年度	実人数			延日数		
	30 年度	元年度	2 年度	30 年度	元年度	2 年度
受診状況	58	59	50	1,764	1,675	1,701
入院状況	11	5	2	298	154	98
施設内処置状況	15	14	15	1,563	1,753	306
機能訓練実施状況	0	0	0	0	0	0
合計	84	78	67	3,625	3,582	2，105

7　給食

⑴　年間給食数　（単位：食）

区分	３０年度	元年度	２年度
利用者	５２，７８３	５３，４６７	５４，２８５
職員等	２，５４１	２，５９４	１，７７９
計	５５，３２４	５６，０６１	５６，０６４

⑵　一日平均摂取栄養量

区分	目標値	実績
エネルギー	１，８００kcal	１，８０２kcal
タンパク質	６３～７２ｇ	７３．１ｇ
脂質	４０～４５ｇ	５０．５ｇ

⑶　食事内容及び間食状況　（単位：人）

区分	形態	実人数			間食
		３０	元	２	
主食	常食	４３	４７	５５	なし
	粥食	１５	１３	１３	
副食	常食	３９	４１	４９	
	細刻み	９	８	９	
	粗刻み	９	９	８	
ミキサー食・ゼリー食		１	２	２	
計		５８	６０	６８	

８　短期入所事業等実施状況　（単位：人）

区分・年度	定員			実人数			延利用日数		
	３０	元	２	３０	元	２	３０	元	２
短期入所事業	4	4	4	１２	２２	１４	６０１	９１３	1,１６９
日中一時支援事業	0	0	0	3	１２	9	２３５	３８３	３２９
タイムケア事業	0	0	0	1	0	0	６５	0	0